

第3章 都市づくりの目標

3-1 都市づくりの目標

高浜町総合計画では、町の将来像を「美しい自然を舞台に 一人ひとりが主役になる 暮らしたい、働きたい、訪れたいまち 高浜町」と定めています。

都市計画マスタープランでは、これを実現するために何が必要かを主に都市計画・都市づくりの視点から捉えるとともに、住民との協働によるまちづくりの視点も踏まえて、都市づくりの目標を次のように定めます。



～ ひと・暮らし・自然・産業が結び付き

文化をつなぐ持続可能な風景都市 ～

高浜町は、若狭湾国定公園に指定された景勝地や若狭富士と称される青葉山をはじめとした美しい自然を有しています。先人達は、美しい自然を大切に守り、生活に上手く取り入れながら、独自の生活文化やコミュニティ、歴史・伝統を築き、農林漁業や食、モノづくりや技、観光などの地域産業を育んできました。

美しい自然だけでなく、その中で培われてきた歴史や伝統、人の営み、暮らしや生活文化など、それら全てが高浜町固有の風景です。

海・山・農の自然や独自の歴史・伝統・生活文化などを、高浜町の誇り・住民共有の財産として意識するとともに、住民をはじめ多様な主体との協働の下で都市の魅力づくりや活力の創出に最大限に活用しながら、次の世代に引き継いでいきます。

又、その担い手である住民がいつまでも安全で心地よく暮らすことができ、達成感や満足感をもって自らの能力を発揮できる持続可能な環境を整えながら、豊かな暮らしと生活文化、コミュニティと心を次の世代につないでいくことを目標とします。



青の松原と青葉山



安土山公園から望む
海辺の町並み



路地を活かしたイベント
(和田 de 路地祭)



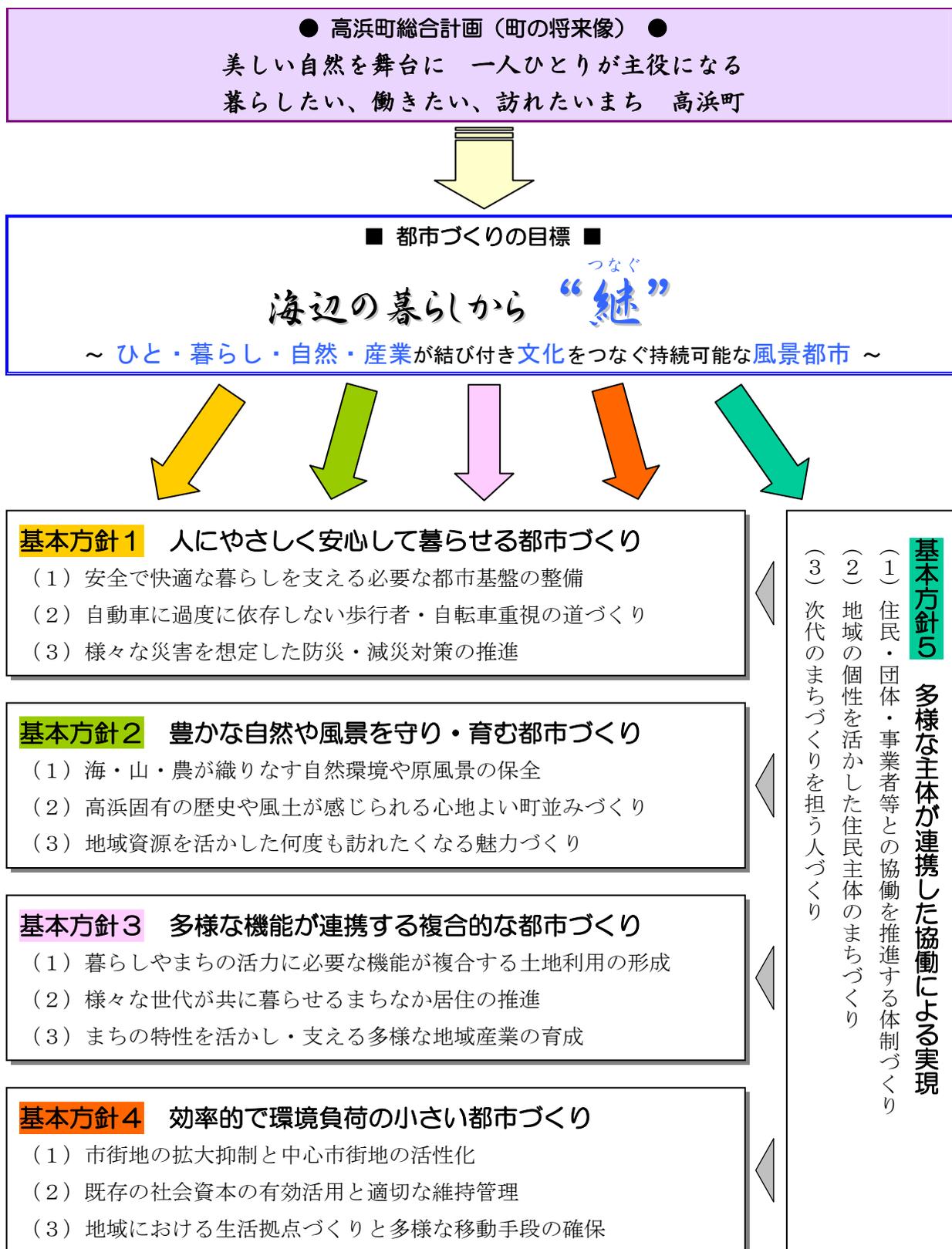
高浜七年祭

※「都市づくり」と「まちづくり」

「都市づくり」と「まちづくり」について明確な定義づけは難しいことから、高浜町都市計画マスタープランでは、主にハード事業・有形のものをイメージする場合には「都市づくり」、主にソフト事業・無形のものイメージする場合には「まちづくり」のような使い分けをします。

3-2 都市づくりの基本方針

都市づくりの目標を実現するため、次の5つの基本方針を定め、総合的・戦略的な視点で都市づくりを進めていきます。



基本方針1 人にやさしく安心して暮らせる都市づくり

(1) 安全で快適な暮らしを支える必要な都市基盤の整備

市街地では、地域資源としての伝統的な町並みや路地空間の保存とのバランスに配慮しつつ、日常的な移動性の向上や防災性の向上などに必要な道路網の整備・充実を図ります。

又、様々な世代の居住ニーズに対応するため、身近な遊びや交流の場となる公園や広場空間の整備、子育て環境の充実などを進めます。

海岸や山間地域では、災害時に対応できる安全な避難地・避難路の確保を図ります。

(2) 自動車に過度に依存しない歩行者・自転車重視の道づくり

高齢化の進展に対応するとともに、自動車に過度に依存することのない環境負荷の小さい都市づくりを目指すため、誰もがいつでも安心して利用できる歩行者・自転車重視の道づくりを進めます。

特にまちなかでは、自動車交通の静穏化を図り、人と自動車の共存を目指すとともに、観光の町として、そぞろ歩きが楽しめる道路環境づくりを進めます。

(3) 様々な災害を想定した防災・減災対策の推進

大規模な自然災害や原子力災害などから住民や来訪者の生命・財産を守り、又、ライフラインや都市機能を維持するため、様々な災害を想定した防災対策を推進します。

一方で、全ての災害を物理的に防止することは困難であり、災害発生時における被害の低減に向けた減災対策を合わせて推進します。

特に、巨大地震や原子力災害などの町域を越える大規模な災害に対しては、国・関係自治体・関係機関と連携しながら、広域災害体制の強化を図ります。

基本方針2 豊かな自然や風景を守り・育む都市づくり

(1) 海・山・農が織りなす自然環境や原風景の保全

海・山・農の自然は、産業活動の場、環境や生態系の保全、原風景、防災、レクリエーションなど多面的な機能を有しており、持続可能な維持管理体制の下で適切に保全します。

特に農地については、まとまりのある市街地を形成する上でも重要な役割を有することをみんなでも共有し、関係部局と連携しながら無秩序な開発を抑制します。

(2) 高浜固有の歴史や風土が感じられる心地よい町並みづくり

旧丹後街道沿いを中心に、伝統的民家群や昔ながらの路地空間が残されています。これらは高浜町の町並みを特徴づける重要な要素であるとともに、地域住民が主体となったまちづくり活動の舞台であり、暮らしぶりそのものに文化的な価値があります。

このような環境の中で暮らすことに対する価値観を共有し、誇りや愛着心を育みながら適切に保全するとともに、心地よさが感じられる質の高い町並みづくりを進めます。

(3) 地域資源を活かした何度も訪れたい魅力づくり

成熟社会を迎え、来訪者のニーズが本物志向へと変化し、見る・遊ぶ・食べるだけでなく、ゆっくりとした時間の使い方や地域との交流を楽しむことへの要求が高まっています。

豊富な地域資源を最大限に活用した新たな魅力づくりや付加価値の創出を図るとともに、適切な誘導と何度も訪れたいくなる温かなもてなしの観光まちづくりを地域ぐるみで進めます。

基本方針3 多様な機能が連携する複合的な都市づくり

(1) 暮らしやまちの活力に必要な機能が複合する土地利用の形成

高浜町の市街地の特徴は、行政・医療・福祉・地域産業などの様々な機能が居住と密接に結び付いているところにあります。

今後とも、様々な機能が上手に共存できる複合的な土地利用の形成を図り、まとまりがあり、歩いて暮らせる環境を創出します。

(2) 様々な世代が共に暮らせるまちなか居住の推進

暮らしやまちの活力に必要な機能が複合し、歩いて暮らせる市街地は、高齢者だけでなく若者世代や子育て世代にとっても住みやすい場所です。

質の高い住環境づくりや道路・公園などの社会資本の整備、居住支援などを積極的に行うとともに、住みたくなる魅力づくりや様々な世代が能力を発揮し活躍できるコミュニティづくりに努めながら、共に暮らせるまちなか居住を推進します。

(3) まちの特性を活かし・支える多様な地域産業の育成

若狭湾の恵みを活かした漁業や食、まちなか居住を支える商店、来訪者をもてなすサービスや民宿など、都市の特性を活かした多様な地域産業の育成を図るとともに、新たな起業家の誘致や起業したくなる環境づくりを進めます。

又、都市の活力創出や定住に向けた雇用の場を創出するため、産業用地の確保と企業誘致を推進します。

基本方針4 効率的で環境負荷の小さい都市づくり

(1) 市街地の拡大抑制と中心市街地の活性化

人口減少や少子化・高齢化の進展、社会総コストの増大、環境問題の深刻化などの厳しい社会経済情勢に対応した持続可能な都市づくりを目指すため、関係部局とも連携しながら拡散的な開発を抑制し、まとまりのある市街地を形成します。

その中で、行政・医療・福祉・自然・歴史・文化・地域産業など多様な機能が集積する中心市街地は、町の「顔」となる場所として、魅力的で賑わいのある都市づくりを進めます。

(2) 既存の社会資本の有効活用と適切な維持管理

住民の安全を守り、暮らしやすさを高めていくため、道路・公園やコミュニティ拠点などの必要な社会資本の整備を進める一方で、環境負荷や財政負担の小さい都市づくりを目指すため、今ある社会資本を最大限に活用します。

又、施設の状態を的確に把握しながら、「予防保全」の考えに基づく戦略的な維持管理・更新を進めます。

(3) 地域における生活拠点づくりと多様な移動手段の確保

まとまりのある市街地を形成する一方で、農林漁業や歴史・文化・コミュニティの担い手などとしての住み続けられる地域づくりが不可欠であり、地域活動の拠点となる公民館などの機能の充実を図ります。

又、高齢化の進展などに伴う移動制約者の増加に対応するため、市街地と地域とを結ぶ道路網や公共交通網の充実を図り、多様性のある移動手段を確保します。

基本方針5 多様な主体が連携した協働による実現

(1) 住民・団体・事業者等との協働を推進する体制づくり

美しい自然の風景を守り、持続可能な都市の形成を目指すとともに、高浜固有の地域資源を次の世代に引き継ぎ、又、豊かな暮らしと生活文化、コミュニティと心をつないでいくためには、多様な主体との協働による取り組みが不可欠です。

住民・団体・事業者と行政の役割分担を明確にし、都市づくり・まちづくりに対する意識を高めるとともに、主体的な取り組みに対する支援、多様な主体と行政が一緒になって考え・活動する場や機会の創出など、様々な場面に応じた協働を推進するための仕組みや体制づくりを進めます。

(2) 地域の個性を活かした住民主体のまちづくり

高浜町においては、個人・地域・団体など多様な主体が地域の良さを見つめ直し、地域の環境を高め、あるいは活力や賑わいを創出するための取り組みが活発に行われています。

満足感や達成感を感じながら今後もこれらの取り組みが継続していけるよう、表彰制度などの評価する仕組みを整えるとともに、主体間のネットワークによる情報の共有化や新たな取り組みの展開などを図り、さらにより地域づくりへとつなげていくために、地域運営（エリアマネジメント）の取り組みを進めます。

(3) 次代のまちづくりを担う人づくり

地域の個性を守り、育てていくためには、次の世代の地域づくり・まちづくりを担う人材の育成が不可欠です。

まちづくりに関する情報提供を充実し、住民の意識を継続的に高めていくとともに、既存の取り組みなどへの若者世代の参画を促しながら、次の世代のリーダーを育てていきます。

又、学校教育とも連携しながら子ども達に対するまちづくり教育を推進し、ふるさと高浜に対する知識を深めるとともに、誇りと愛着心の醸成を図ります。

3-3 将来人口の予測

平成 22 年の国勢調査による高浜町の人口は 11,062 人で、平成 2 年をピークに減少傾向が続いています。

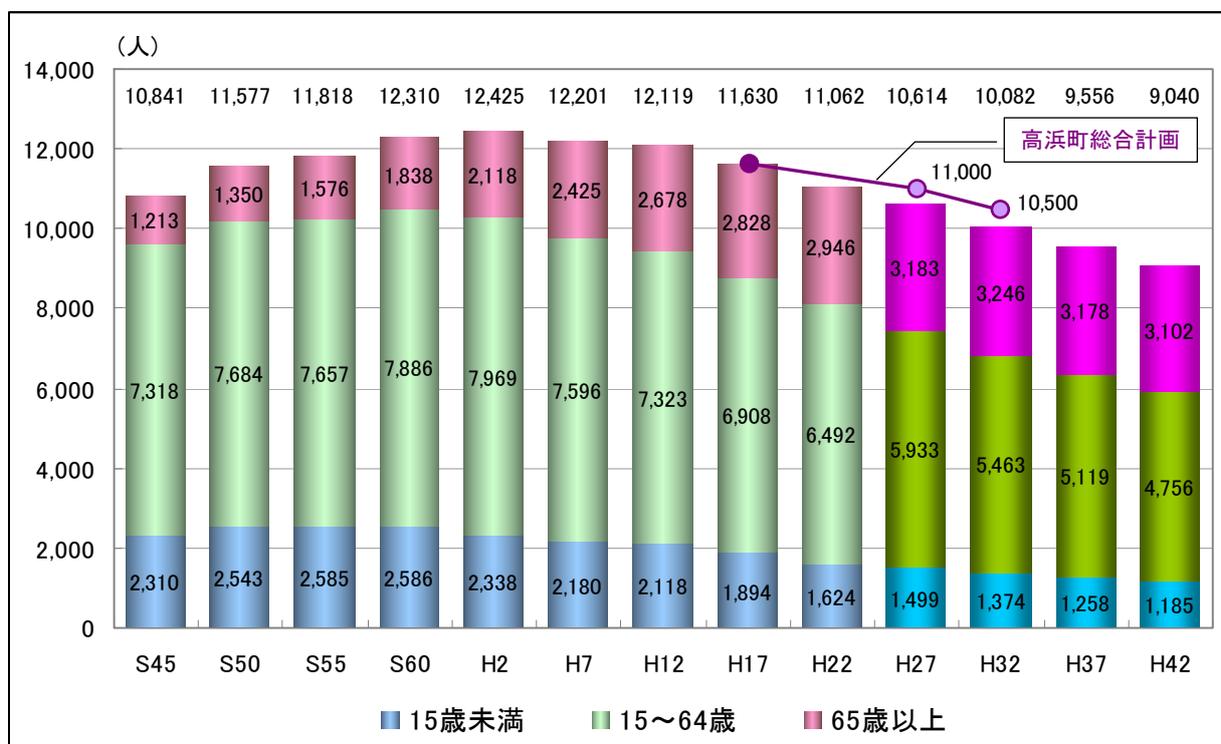
国立社会保障・人口問題研究所が平成 20 年 12 月に行った「日本の市区町村別将来推計人口」によると、高浜町の人口は平成 32 年に約 10,000 人、平成 42 年には約 9,000 人にまで減少するものと予測されています。

このような流れを受けて、高浜町総合計画においても、将来人口は減少するものとして設定されています。

人口の減少は、都市の活力低下や産業の衰退だけでなく、海辺の町としての美しい自然風景の荒廃、長年にわたり培われてきた独自の歴史・伝統・生活文化・地域産業の担い手不足、地域コミュニティの衰退などを招きます。

このため、安全に住み続けられる環境づくり、人口流出の抑制とUJIターンの推進、雇用の場の確保、子どもを産み・育てやすい環境づくりなどを進め、人口の減少を抑制するとともに、観光をはじめとする交流人口の拡大に取り組んでいくことが必要です。

又、空き家や空き地の増加、施設利用者の減少なども予想され、さらに、高齢化が一層進むものと予測されることから、これまで以上に効率的な都市づくりを進めるとともに、都市サービスや住民サービスが平等に受けられるための移動性の確保などに取り組んでいくことが必要となります。



人口の推移と将来人口の予測

※1：平成 22 年までは、国勢調査による実績値

※2：平成 27 年以降は、国立社会保障・人口問題研究所が平成 20 年 12 月に行った市町村別の推計値
(各年齢階層の合計値と全体の推計値には誤差がある。)

※3：高浜町総合計画における将来人口は、コーホート要因法による推計値及び国の推計値などを踏まえて設定

3-4 目指すべき都市の構造

高浜町は、若狭湾に面する海辺の都市（町）です。若狭富士と称される青葉山などの急峻な山並みが海岸に迫ることから、海辺にまとまりのある市街地が形成されてきました。

このような地形条件だからこそ、生活の中に自然を身近に感じることができ、漁村文化や路地文化などの独自の生活文化が培われ、生活と結び付いた地域産業が育まれてきたと言えます。もちろん、農山漁村地域には、農林漁業を担う集落が形成されています。

町のどこからでも美しい自然風景や生活文化が楽しめる環境は、住民共有の財産・誇りであり、観光の町としても重要な要素です。

又、このような都市の構造は、人口減少社会の到来や少子化・高齢化の進展、環境問題の深刻化など、わが国が抱える都市問題を解決する上で目指すべき理想像の一つです。

このため、美しい自然風景とまとまりのある都市の構造を維持することを基本としつつ、地域の特徴を活かした魅力づくりや生活利便性の向上など、必要な整備を図ることを目指します。

(1) 土地利用の基本ゾーニング

地形条件や自然条件、法規制などを踏まえ、土地利用の基本的な構成を次の3つにゾーニングします。

ゾーニング	ゾーニングにおける基本的な考え方	
市街地	<p>市街地の範囲は、現在の用途地域を基本とし、まとまりのある市街地形態を維持します。</p> <p>居住・行政・医療・福祉・歴史・文化・商業・観光・地域産業など、様々な機能を複合的に配置します。</p> <p>道路・公園などの社会資本の整備、良好な町並みづくり、防災・減災対策などを積極的に進めます。</p>	 <p>市街地内から望む青葉山</p>
田園・集落地域	<p>食糧生産の場・生態系の保全・景観・防災などの観点からだけでなく、持続可能な都市を形成する上で農地が果たす役割を関係部局間で共有し、後継者の育成などを図りながら適正に保全します。</p> <p>生活利便性や防災性の向上など住み続けられる環境を整え、農林漁業や地域まちづくりの担い手としての集落の活力を維持します。</p>	 <p>農業風景</p>
森林地域	<p>後継者の育成などを図りながら、木材生産の場・環境や生態系の保全・景観・防災など森林の有する多面的機能を保全します。</p> <p>青葉山・城山（城山公園）・安土山などは、観光・レクリエーションの拠点としての整備・活用を促進します。</p>	 <p>青葉山から音海方面への眺望</p>

(2) 都市の拠点

都市の活力や賑わいの創出、生活利便性の向上などを図る上で中心的な役割を果たす場所を都市の拠点に位置づけ、それぞれの特徴に応じた整備・充実を図ります。

都市の拠点	拠点づくりに関する基本的な考え方	
安心・賑わい 創出拠点	<p>行政・医療・福祉・コミュニティ・商業などの都市機能を集約し、住民への生活サービスや来訪者への観光サービスなどの向上を図ります。</p> <p>防災性や快適性などの向上、住宅地の整備や居住支援などを図りながら、まちなか居住を推進します。</p> <p>高齢化の進展などに対応し、自動車に過度に依存せずに歩いて暮らすことのできる環境を整えます。</p> <p>城山公園・海水浴場・歴史・文化・町並み・高浜漁港・食などの地域資源を活用し、都市の賑わいや活力を創出する先導的なまちづくりを進めます。</p>	 <p>高浜漁港と青葉山</p>
生活文化拠点	<p>地域の特徴である伝統的な町並みや昔ながらの路地空間などを地域の宝として保全しつつ、安全で快適に暮らせるための都市基盤の整備を進めます。</p> <p>海水浴場・民宿・町並み・路地空間・和田港などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、住民相互や来訪者との交流などを通じて、地域の魅力や活力の創出を図ります。</p>	 <p>和田の路地空間</p>
地域生活拠点	<p>地域におけるコミュニティ活動や防災の拠点などとして、公民館を中心に機能の充実を図るとともに、誰もがアクセスしやすい移動環境を整えます。</p> <p>(高浜地区は「安心・賑わい創出拠点」、和田地区は「生活文化拠点」に含まれます。)</p>	 <p>内浦公民館</p>
工業・研究拠点	<p>既存の工業団地は、産業活動の場としての環境を維持します。</p> <p>青戸入江の埋立地は、次世代産業などの導入により、新たな産業・研究拠点の形成を図ります。</p> <p>将来的な工業用地の確保については、土地利用条件や交通条件などを勘案しながら検討します。</p>	 <p>工業団地</p>

都市の拠点	拠点づくりに関する基本的な考え方	
公園緑地拠点	<p>青戸入江の埋立地を利用した公園整備を検討するとともに、既存の公園については、利用したくなる魅力的な公園として、再整備や機能充実、アクセスの向上などを図ります。</p> <p>又、公園は災害発生時における避難地としての役割も果たすことから、防災機能の充実を図ります。</p>	 <p data-bbox="1121 517 1315 539">城山公園と明鏡洞</p>

(3) 都市の軸

高浜・和田・青郷・内浦の4つの地区及び都市の拠点相互の連携を強めるため、主要な道路網を交通軸に位置づけるとともに、原風景の骨格を形成する美しい自然を環境軸として位置づけ、それぞれの役割や特徴に応じた整備・保全を図ります。

都市の軸		軸づくりに関する基本的な考え方	
環境軸	交通軸	<p>舞鶴若狭自動車道や国道27号などを骨格に、周辺都市との広域的な交流や連携を促進します。その他の路線については、地域の実情に応じた整備・充実を図るとともに、避難路としての機能を確保します。</p> <p>特に市街地では、誰もが安全に歩ける歩行者空間の整備や道路空間の利用を図ります。</p> <p>一般県道高浜港高浜停車場線や旧丹後街道などは、関係機関と連携し、沿道の町並みの整備・保全と合わせて歩いて楽しい道づくりを進めます。</p> <p>高齢化の進展などに対応し、誰もが移動しやすい公共交通ネットワークづくりを進めます。</p>	 <p data-bbox="1161 1171 1278 1193">国道27号</p>
	海岸環境軸 山並み環境軸	<p>若狭湾国定公園に指定された美しい海岸風景を地域との協働により保全するとともに、通年型の観光まちづくりを推進し、地域の活力や来訪者との交流を創出します。</p> <p>牧山～三国岳～青葉山～若狭湾国定公園などと続く山並みは、海岸風景と並んで豊かな自然風景を形成する重要な要素であり、環境軸として良好な自然を保全します。</p>	 <p data-bbox="1121 1697 1315 1720">美しく続く海岸線</p>  <p data-bbox="1161 2029 1278 2051">音海大断崖</p>

目指すべき都市の構造図

- 土地利用の基本ゾーニング
- 市街地（将来）
 - 田園・集落地域
 - 森林地域
- 都市の拠点
- 安心・賑わい創出拠点 [地域生活拠点含む]
 - 生活文化拠点
 - 地域生活拠点
 - 工業・研究拠点
 - 公園緑地拠点
- 都市の軸（交通軸）
- 広域運携軸
 - 舞鶴若狭自動車道
 - 骨格幹線道路
 - 地域幹線道路
 - その他の主要な道路
 - 歴史景観軸（旧丹後街道等）
 - 自転車道・自然歩道
 - JR小浜線・駅
- 都市の軸（環境軸）
- 海岸環境軸
 - 山並み環境軸
 - 主要な河川
- 行政区域
地区界
都市計画区域

